たいせつなのは「いのち」と「平和」

憲法９条　不戦の誓いを守る

安保法制が強行解決されてから７年。国会で改憲勢力が過半数を占め、平和憲法の改定が現実味をおびてきました。

防衛費を５年で倍増し、敵基地攻撃能力の保有、米国の核兵器を日本に配備して共同運用する「核の共有」等、ますます戦争ができる国へと近づいています。

いのち”と“平和”を最優先に

私たちは、ずっと、“いのち”と“平和”を政策の真ん中に据え活動してきました。全ての人の人権が尊重され、世界のあらゆる人々が平和に暮らすことができる戦争のない世界をめざして、アピール行動を行いました。

国政を視る！

エネルギー不足、電力の危機とあおるけど
原発再稼働、新増設、建て替えには NO！

岸田首相は８月 24 日に開かれた、脱炭素社会への移行に向けた政策を検討する「グリーントランスフォーメーション（GX）実行会議」で、脱炭素社会や電力の安定供給を実現するには原発の活用が不可欠と判断し、新増設や建て替え（リプレース）を検討すると、突然方針転換を打ち出した。背景にはウクライナ危機による天然ガスなどの高騰があります。電力需要のひっ迫を理由に「CO2 を排出しない原子力を最大限活用していく」としている。

◆再稼働と新増設？

原発を再稼働させる方針と同時に、原発の運転期間の延長を検討する方針も示された。原発の運転期間は 40 年、延長した場合でも最長 60 年とされるが、もっと延長できるようにしようとしている。この運転期間延長は産業界や電力業界が最も強く望んでいた政策だった。

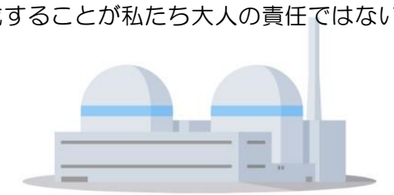
◆原発政策には多く未解決の課題が山済み

気候危機とウクライナ危機を大義名分に動き出した原発政策だが、福島第一原発事故から、原発で事故が起こると人間の手に負えないことは明らかだ。10 年以上が経っても、日常を取り戻せない多くの人がいる。汚染水や廃炉の問題など解決する見通しも、まだ立っていない。

また、使用済み核燃料から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場の建設地は未定のままで、核のごみはたまっていくばかりである。まずは今ある使用済み核燃料の問題を解決することが最優先だ。

◆大人の責任を果たす

今の子どもたちが大人になった社会、次の世代が生きていく社会を、少しでも安全に暮らせるようにしたい。“どこかの誰か”がリスクを負うような不条理をなくすために、「原発なし」で二酸化炭素排出実質ゼロを達成することが私たち大人の責任ではないだろうか。



私たちの声を国政に…国会報告と交流会を開催。

政策協定を結び推薦した、堤かなめさん（2021 年 10 月衆議院議員選挙・福岡県５区選出）と、辻元清美さん（2022 年 7 月参議委員選挙・全国比例区）と、交流会を開催しました。

意見交換をして、私たちと同じ思いで政治を進める国会議員がいることをとても心強く、少し遠くに感じていた国政を自分たちに引き寄せることができました。

これからも、政策協定に基づき、様々な課題の意見交換をおこない、国政に反映できるよう交流会を続けていきたいと思います。

政策協定の内容

一、子ども・若者の未来に責任が持てる社会をめざす
一、すべての人の人権を保障する社会の実現をめざす
一、軍事によらない平和の実現をめざす
一、原発に頼らないエネルギー政策を確立し、持続可能な地球環境をめざす
一、性を理由とするすべてのハラスメント、差別、暴力をなくす

堤かなめさん　　７月 21 日・古賀市にて

１月から６月に行われた国会の報告を聞きました。堤さんが特に大事にしていることのひとつ「食」についての意見交換をおこないました。

国は「緑の食料システム戦略」の中で、2050 年までに有機農業の面積を全体の 25%にする目標を掲げています。現在の有機農地面積は 1%程、目標達成する鍵は学校給食で有機農産物を使用することだと話されました。世界ではオーガニックの流れが加速しています。日本でも少しずつオーガニック給食が広がっています。

後日有機農業の現場を一緒に視察しました。少しずつでも進むよう活動していきたいと思います。

辻元清美さん　　９月 26 日・オンラインにて

「前回の衆議院選で落選後、全国の小さな町や村にも足を運び、たくさんの話しを聴いてきました。本当に困っている人の声が政治の場に届いていないことを実感し、落選したことにも意味があったと思う」と話されました。

原発の再稼働については、使用済み燃料の処理の問題等様々な問題と防衛上の問題があること。食料自給率が低い日本で、農業は重要にも関わらずその農業が危機的状況にあること。環境問題と食の安全などについて、意見交換をおこないました。

地域からの暮らしの声を国政にも届け、本当の「ボトムアップ」を実践していきます。

オーガニック給食を子どもたちに

私たちは、心身ともに成長期にある子どもたちが毎日口にする給食だからこそ、安心安全な農産物を使った給食を食べてほしいと思い活動をしてきました。

今こそ有機農業を進める時

有機農業は化学肥料や農薬を使用しない、また遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本としているため、土の中の微生物が多く、働く人の健康にも、環境にも優しい。また、有機肥料で土壌にたくさんの炭素を取り組むことができ、CO_2削減にも寄与します。

今、農業に使われる化学肥料はほとんどが輸入で、世界情勢で化学肥料の価格が上がっています。肥料が輸入できなくなる可能性もあります。有機農業を進めることで、日本の食、農業、環境を守ることにつながります。世界的な食糧危機が危惧されるいまこそ、有機農業へと舵を切るときです。

全国で広がるオーガニック給食

海外では、フィンランド、フランス、アメリカ、イタリア、韓国等多くの国がオーガニック給食に取組んでいます。

日本では千葉県いすみ市、愛知県東郷町、石川県羽咋市、愛媛県今治市、東京都武蔵野市など、少しずつ広がっています。最初から 100%有機農産物は無理かもしれません。まずはお米や、野菜の一部から使い始めることが大切だと思います。